

令和4年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業計画

1. 基本方針

- (1) 家庭の延長と感じられる“居心地の良い”環境づくりをしていきます。
- (2) ニーズに沿ったケアが提供できるよう「質の向上」を図っていきます。
- (3) 継続的なチームケアと人材育成に努めていきます。
- (4) 自然災害や新型コロナ感染に備え、BCPに基づいたマニュアルを周知、円滑に事業の継続を行えるようにしていきます。

2. 各家の基本的な取り組み

(1) 生活・環境面の充実

取組	具体的内容
1. 居心地の良い環境づくり (安らげる環境)	1-① 共有の場所とプライベート空間の見直し。 ② 馴染みのある家具等の多用。 ③ 整理整頓、清潔保持、消臭対策の徹底。 ④ うたた寝が出来るような環境(場所等)をつくる。
2. 生活リズムの維持	2-① 職員間でプラスαの情報を共有。 (24Hシートも活用→サービス計画→ケア会議時) ② 生活習慣と意向を尊重。(就寝や起床時間を個別毎に対応等) ③ 体調の変化に合わせケアの見直し。
3. 家庭的な雰囲気づくり	3-① 入居者と世間話の時間を増やす。 ② 一人ひとりの誕生日祝を継続。 ③ 一緒にテーブルを囲み職員も同じ食事を摂る。 ④ ご家族との面会時に近況を報告、次回の面会に繋げる。 ⑤ 生活の音や匂いが感じられる空間をつくる。(間を大切に)

(2) サービスの質の向上

(食事)

取組	具体的内容
1. 体調に合わせた食事	1-① 食べられるタイミングを見逃さない。(起床時に合わせる等) ② 食事の嗜好、咀嚼、嚥下の現状を把握。 ③ 食事形態の選定。 (常食、軟食、ソフト食、キザミ食、ペースト食、ゼリー食等) ④ 適正な水分の粘度調整。(トロミ剤での調整) ⑤ 経管栄養注入時の安全管理。 ⑥ 環境を整える。(姿勢、テーブル、椅子の調整等)
2. 家庭的・季節感を味わう	2-① 季節感が味わえる行事食の提供。 ② 家内での炊飯やみそ汁作り。 ③ 家庭菜園から野菜を収穫し調理。 ④ 食事中の会話を楽しむ。
3. 口腔内清潔保持	3-① 毎食後の口腔ケアと用品選定。 (歯ブラシ、スポジカ、クルリーナ、マウスウォッシュ、泡フォーム等) ② 義歯管理、自歯の保持。 ③ 口腔ケア体操や会話を増やし摂取機能の維持。

(排泄)

取組	具体的内容
1. 体調に合わせる	1-① 排泄パターンの把握と排泄用品の選定。 (紙おむつ、パット、リハビリパンツ、布・失禁パンツ等) ② 意向の尊重とプライバシーに配慮した介助。
2. オムツからトイレ介助へ移行	2-① トイレで爽快感を味わってもらう。 ② 水分摂取と排泄の形状や量の観察と調整。 ③ 座位保持可能な方のトイレ介助。(福祉用具活用、2人介助等)
3. 皮膚の保護	3-① 皮膚トラブル防止。(陰部洗浄・清拭、ワセリン塗布等) ② 蒸れ防止に努める。

(入浴)

取組	具体的内容
1. 体調に合わせる	1-① 体調に合わせた入浴形態の検討。 (ユニット内の個浴、天板式機械浴、チェアインバス等) ② 介助が難しい時は、福祉用具の活用や2人介助で行う。 ③ 皮膚の状態により個々に合ったシャンプーやソープを使用する。
2. 快適な入浴	2-① お湯加減(38~40℃)、浴室温度(23~25℃)を常時確認。 ② マンツーマン介助にて、ゆったりとした入浴の提供。 ③ 季節に合わせた入浴。(お風呂の日を設け、ゆず湯や菖蒲湯等を提供)

(自立支援)

取組	具体的内容
1. レクリエーションへの参加	1-① 朝のラジオ体操で体の目覚めを促す。 ② 口腔ケア体操で嚥下機能の低下防止。 ③ レク体操で機能維持や交流を楽しむ。
2. 趣味や生きがいづくり	2-① クラブ活動の開催。 ・ 手芸、貼り絵、塗り絵等。(ホールで週1回) ・ カラオケ。(西・北棟別に毎週日曜日) ② 完成品は文化祭へ出品、地域との繋がりを図る。 ③ ユニット毎、個々に合わせた役割を提供。 (洗濯物たたみ、おしぼりづくり、食事配膳のお手伝い等)
3. 買い物支援	3-① 売店の開催(月1回) ・ 自分で選べる環境を提供、達成感を味わって頂く。 (事前に嗜好品や必需品等を聞き売店に揃えておく)

(重度化ケアと看取り)

取組	具体的内容
1. 最期まで諦めないケア	1-① ベッド環境をより安楽に。(マットレス・寝具の選定と見直し) ② 苦痛を感じさせないケア。 ・ 手足の冷感対策。また、褥瘡を作らない。 (体調に合わせた体位交換と安楽なポジショニング) ③ 口から食べられる。 ・ 嚥下状態に合わせた食事提供。 ・ 少量でも味わうことの思いを大切にす。 ④ 体に負担がかからない入浴方法。 ・ その日の体調に合わせて看護師と相談。 ・ 入浴出来ない時は清拭で保清。
2. 孤独感を感じさせない	2-① 希望によりベッド毎フロアに移動、皆と同じ場所へ。 ② 居室内でも好きなことをして頂く。(趣味等) ③ 職員とのスキンシップを1日1回は行う。 ④ 家族との面会時間を多く持てるよう働きかける。

3. 人材育成

(職員育成)

取組	具体的内容
1. 職員育成	1-① 介護・福祉関連資格取得への支援。 ② 高度な介護技術や専門的知識を深める。 ・ 施設内外の研修や委員会に参加、全介護職へフィードバック。 ③ チームケアで日常生活の継続支援。 ・ 家内会議で詳細な情報を共有。 ・ 申し送りの徹底。 ・ サービス計画の理解と連携。 ④ 多職種との連携。 ・ ケア会議や各委員会等で情報交換や勉強会を実施。
2. 会議、委員会の充実	2-① 各会議の適宜開催。(4会議) ・ 職員会議、家長会議、家会議、ケア会議

	② 各委員会の開催。(6委員会) ・ 身体拘束委員会、食事・口腔ケア委員会、感染症対策委員会、事故防止対策委員会、排泄・褥瘡対策委員会、環境・設備委員会。
--	--

#### 4. 運営等 (危機管理)

取組	具体的内容
1. 安全性と危機管理	1-① 身体拘束ゼロの継続。 ・ 状況により転倒防止と捉えるか行動制限と捉えるか等、ケア会議で検討し委員会へ。 ② 新型コロナウイルス感染防止対策。 ・ 出勤時の検温・手指消毒・うがい、常時マスク着用の徹底。 ・ 機器により施設内の空間除菌。 ・ 西北棟ホールに自動噴霧器設置。 ・ 食後のテーブルや共用部分、手すり等の除菌。 ・ 入居者のケア後の手指消毒必須。(特に排泄介助や口腔ケア) ・ 職員の外出時(県外)の事前行動報告。 ・ 新型コロナウイルス感染対応マニュアルの見直し。 ・ 新着情報の提供。 ③ 災害時の対応。 ・ 安全管理担当者、設備・環境委員会を中心に、施設内の環境、福祉用具等、不具合を適宜確認していく。 ・ 防災マニュアルの見直し等。(停電時に係る不具合の対応等)

#### (運営に関して)

取組	具体的内容
1. 介護報酬の理解	1-① 科学的介護情報システム(LIFE)を活用したPDCAサイクルの促進等。 ・ 栄養ケア・マネジメント、褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算等に係る整備状況の点検と確認。
2. 入居者を迎える	2-① 適した居室、福祉用具(車いす)等の準備。 ・ 率先して受入体制を整える。

#### 5. 年間行事

	内容		内容
4月	家族会総会、花見交流会	10月	外食ドライブ
5月	花見ドライブ	11月	芋煮会、ミニ運動会
6月	外食・ドライブ	12月	クリスマス会、餅つき
7月	七夕会	1月	新年会
8月	ホーム夏祭り	2月	節分、豆まき
9月	敬老会	3月	ひなまつり

1. 家目標

- (1) 認知症の心と行動を理解し、BPSD（認知症の行動・心理症状等）を和らげるケアを行う。
- (2) 日々の生活が、居心地良く過ごせるよう環境作りをしていく。

2. 具体的な方針

- (1) 認知症状のある方に対し、心を落ち着かせ暮らせる“居場所”をつくる。
- (2) 情報収集をしっかり行い、些細な情報でも共有しケアに繋げる。
- (3) 体調や些細な変化に気付き、多職種と連携しながら、その人らしい最期を迎えることが出来るよう支援していく。
- (4) 年間を通し、感染症に対する知識や理解を深め、予防対策を徹底する。
- (5) 介護の質の向上を念頭に、スキルアップを目指し積極的に研修や勉強会に参加する。

3. 生活面について

<p>(1)生活面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ストレスを溜め込まない環境づくりを行う。 身体を動かし(ボール転がしや、風船バレー)、大きな声を出し(懐メロ・民謡・唱歌等) 元気に過ごせるお手伝いをする。</li> <li>② 落ち着いて過ごせるようフロアや居室の整理整頓を行う。(使い慣れた自分の椅子やソファの配置の検討)</li> <li>③ 長時間居室で過ごす方の離床時間を増やすため、希望により、ホール等で交流できるような場を設ける。</li> <li>④ テレビや音楽鑑賞ばかりでなく、日々の身近な話題を取り上げ、コミュニケーションを深めていく。</li> <li>⑤ 洗濯物を干したり畳んだり、新聞紙を折ったり、縫物をしたり、生活の中に役割をつくり、充実した日々が送れるようお手伝いする。</li> <li>⑥ こまめに換気や手洗い、うがいなどを行い感染症予防に努める。</li> </ul>
<p>(2)食事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個々の状態に応じ食事形態の見直しを行う。</li> <li>② 食事量の低下や栄養状態に偏りがある方に対し、多職種と連携し、栄養補助食品や嗜好品の提供等を試みる。</li> <li>③ 落ち着いた雰囲気の中で食事が摂れるよう、テーブル配置や席替え、季節の花をテーブルに飾るなど環境を整えていく。</li> <li>④ 居室で食事を摂る方の気分転換を図るのため、体調を見ながら離床を促し、フロアで過して頂けるようにしていく。</li> <li>⑤ 食前体操をしっかり行い、口腔機能の維持を保てるようにしていく。</li> </ul>
<p>(3)入浴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個々の入浴形態が現状に合っているか、適宜、見直しを行う。</li> <li>② 季節に合った入浴剤(ゆず・檜・桜等)を使用することで、季節を感じて頂けるようにしていく。</li> <li>③ 全身状況や皮膚の状態の観察を怠らない。(早期発見によりトラブルを</li> </ul>

	未然に防ぐ)
(4)排泄	① 排尿・排便チェック表を活用しながら、肌に合ったパットの選定や排泄交換の時間、交換方法を検討し対応していく。 ② 医務室と情報共有しながら、個々の状態に応じ対応する。
(5)認知症 ケア	① ユニット内で情報を共有しながら統一したケア行う。 ② 問題をチームワークで解決できる環境をつくる。(一人で悩まないよう気軽に相談に乗れる体制をつくる) ③ 職員間で情報共有しながら前向きに取り組む。 ④ 何でも気軽に話せるような顔馴染みの関係をつくる。 ⑤ 一人ひとりの状態が其々違うため“今、して欲しいこと”を表情や言動・行動から判断し柔軟に対応できるようにする。

#### 4. その他の取り組み

- 誕生会の開催：本人の食べたいケーキ等を準備、また、晴れ着を着ての写真撮影。
- 散歩：天候を見て実施（気候が良い日にゆっくり散歩・外気浴・日向ぼっこをする）。
- 野菜作り：5月中旬から9月頃まで畑を作り、季節の野菜の苗を育て、食する。  
（カボチャ・じゃがいも・きゅうり・いんげん・なす・トマト等）
- 家料理：美味しい季節の食材を使い皆で一緒に食べる。

令和4年度 めくもりの家 事業計画（西棟）

1. 家目標

和やかに充実した生活が送れるような家づくりを目指します。

2. 具体的な方針

- (1) ご利用者の声に耳を傾け、必要とされるケアとは何かを考え柔軟に対応する。
- (2) 些細な変化でも、申し送りで共有しながら体調管理と事故防止に努める。
- (3) 職員が積極的に意見やアイデアを出し、新たなニーズに答えられるようにする。
- (4) ご家族との面会時には近況を伝え、また、家族への手紙等では日常生活が分かるような写真を添付するなど、家族の繋がりを大切にしていく。
- (5) 「報、連、相」を念頭に、何かあれば即、繋げる体制にしておく。
- (6) 新しくご利用者を迎える時は、ご家族から情報をしっかり得、家内で活かせるよう環境を整え、早く馴染めるようにする。

3. 生活面について

(1)生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭の延長で、楽しみを持ち充実した生活を送れる環境づくり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縫い物や、塗り絵、計算問題を解く、テレビ鑑賞等を提供。</li> </ul> </li> <li>② 機能低下防止と気分転換を図る。 感染症対策を鑑み、家内でのレクリエーションを充実させる。(ボール投げ、輪投げ、リズム体操、的当て、唄を歌う等)</li> <li>③ 終末期を迎えられた方へのケア。 多職種と連携を密にし、孤独にならないよう身体的、精神的緩和に努め、不安を取り除けるよう声掛けを絶やさない。</li> <li>④ ベッド上で過ごされる方の機能低下防止。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々に合った福祉用具とポジショニングを提供する。 (体位交換用クッションと除圧マットレス、ムートンの活用)</li> <li>・ 体調に合わせて離床時間を増やし、機能低下防止や褥瘡予防に努める。</li> </ul> </li> <li>⑤ 不快なく過ごせるようにする。 ご利用者同士の会話が成り立たない時には、職員が間に入りサポートすることで、コミュニケーションが継続できるようにしていく。(筆談やその方のトーンで話す)</li> </ul>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食べ易い食事の提供と誤嚥予防。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体調の変化に合わせて、多職種と情報を共有し、食事形態の見直しを適宜行う。(ソフト食、ペースト食、全粥、軟飯、トロミ等)</li> <li>・ 個々に合った食器、自助具等を使用し、食べる姿勢も整える。</li> <li>・ 食事前の口腔ケア体操(パタカラ体操)を行い唾液の分泌を促す。</li> <li>・ 食事がなかなか進まない方に対し、飲み込みの様子や眠気の状態を観察、急かさないうで食事が摂れるよう声掛けしていく。</li> <li>・ 個々に合った口腔用品を使用し、口腔内のトラブルを無くしていく。</li> </ul> </li> </ul>

(3)入浴	<p>① 安全、安楽な入浴の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚が薄く内出血や裂傷が出来易い方への対応として、皮膚保護用のエアークッションや柔らかい素材のものを使用し、個々に応じ介助も複数で行う。</li> </ul> <p>② 季節を感じながら、ゆったりとした入浴の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>菖蒲湯やゆず湯、又は、温泉気分を味わえるよう入浴剤を使用する。</li> <li>個々により入浴時間を検討していく。</li> </ul>
(4)排泄	<p>① 皮膚トラブル、褥瘡予防対策。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尿量と皮膚に合ったパットの選定。個々に合わせた時間に排泄交換。</li> <li>皮膚が薄く、裂傷や内出血の出来易い方は、細心の注意を払い、昼夜とも2人対応で排泄交換を行う。</li> </ul> <p>② プライバシーに配慮。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小さなバックに清拭タオルと陰部洗浄ボトルを入れ、入室し、他のご利用者に気付かれないよう排泄交換をする。</li> </ul> <p>③ トイレで排泄が出来る喜びと爽快感を大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安楽にできるよう、個々により2人介助で行う。</li> <li>体調管理を怠らない。</li> </ul>
(5)認知症ケア	<p>① 自尊心や感情を傷つけないよう、声掛けを十分注意し、信頼関係を築いていく。</p> <p>② 個々のペースに合わせ、その人らしさを出せるよう支援していく。</p> <p>③ 夕暮れ症候群的な行動が見られる時には、本人の立場に立ち、共感と行動を共にし、寄り添う。また、冷静な声掛けにより落ち着けるよう関わりを大切にする。</p> <p>④ 自分だったら、又は、自分の家族だったらどうして欲しいか、常に考えながら関わる。</p>

#### 4. その他の取り組み

- ① 土曜日のみそ汁作りは、ご利用者に刻んで頂き、共に調理し現存機能を維持する。
- ② 季節の野菜収穫時、家料理を8月～10月にかけて、ご利用者と一緒に行う。
- ③ 夏の菜園と花植えは、ご利用者が負担にならない程度とし、中庭で楽しむ。  
(きゅうり、なす、トマト、とうもろこし、さつまいも等)

令和4年度 やすらぎの家 事業計画（西棟）

1. 家目標

尊厳を保ち、安心して生活できるよう、耳を傾け、不安等を与えないよう支援する。

2. 具体的な方針

- (1) 申し送りの徹底とケアの統一を図り、ご利用者の声を聞き逃さない。
- (2) 居室内の設えや、衛生面・環境を整え、落ち着ける場をつくる。
- (3) 気遣いなく意思が伝えられるような環境にしていく。
- (4) 終末期には、その人らしい最期を迎えられるよう、多職種間で連携し日々のケアにあたる。

3. 生活面について

(1)生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 季節の生花等を飾り、居心地の良い生活空間づくりに心掛ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリも兼ねて季節毎の生け花をして頂く。</li> </ul> </li> <li>② 感染予防に対する意識を常に持つ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手指消毒や居室の換気・加湿・室温管理を徹底していく。</li> </ul> </li> <li>③ 気分転や日常生活に楽しみを持てるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外気浴やレクリエーション（ボール投げ、カラオケ、塗り絵）を行う。</li> </ul> </li> <li>④ 浮腫み対策として。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マッサージや、足台を作り、足を上げることで浮腫み防止に繋げる。</li> </ul> </li> <li>⑤ 現存機能の維持を自然に。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞畳みや洗濯物畳み等を日常化することで、役割と機能維持を図る。</li> </ul> </li> </ul>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食事内容を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嗜好を把握しながら体調に合った食事が摂れるよう対応していく。</li> </ul> </li> <li>② 安全に食事が摂れるよう摂取状況を常に把握しておく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲み込み状況や咀嚼の確認。</li> </ul> </li> <li>③ 食事を楽しく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 盛り付けや食器など工夫し提供する。</li> </ul> </li> <li>④ 食前体操。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パタカラ体操で口腔マッサージを行い、唾液の分泌を促進し食への意欲を図り、口腔機能向上に努める。</li> </ul> </li> <li>⑤ 環境を整え、笑顔を見出せるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロアの一部をレストラン風に設えたり、中庭での食事会も行う。</li> </ul> </li> </ul>
(3)入浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 入浴前後のプライバシーに配慮し、リラックスして入浴をして頂く。</li> <li>② 随時、体調変化に合わせた入浴が提供できるようにする。</li> <li>③ 皮膚トラブルに対しての対応。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人にあった入浴剤の使用や、クリーム等で保湿を行う。</li> </ul> </li> <li>④ 時間に追われることなく、ゆったりとした入浴が出来るよう、職員は心</li> </ul>



	<p>に余裕を持って対応していく。</p> <p>⑤ 安全に入浴出来るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の移乗や移動、入浴方法を職員間で共有し、確認しながら進める。</li> <li>・ 移乗用ベルト等を活用し、ご利用者や職員の負担軽減を図る。</li> </ul>
(4)排泄	<p>① 言葉遣いに注意すると共に、プライバシーへの配慮も怠らないようにする。</p> <p>② 排泄交換後のベッド内や居室の消臭対策・衛生面に気を配る。</p> <p>③ 陰部洗浄や清拭を行い、清潔・保湿に心掛ける。</p> <p>④ トイレ内の清潔・衛生面に気を配る。</p> <p>⑤ 個人に合ったパットやパンツの選定。</p>
(5)認知症 ケア	<p>① 行動や言動を否定せず受け止める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活動作の制限をせず、何故、その行動を取ったのかを理解し、見守っていく。</li> <li>・ 話しを十分に聞き、感情、行動の意味や思いをくみ取り、身体言語を活用しながら気持ちを支えていく。</li> </ul> <p>② 意志を尊重する。</p> <p>③ 心のケアにあたる。</p>

#### 4. その他の取り組み

- ・ パタカラ体操やラジオ体操に力を入れ、毎日の習慣となるよう努める。
- ・ 家内でレクリエーションやカラオケを行い、気分転換を図る。
- ・ 畑で取れた季節の野菜を使い、家内で調理し美味しく頂く。
  - 5月 畑の土作り。
  - 6月～ 9月 夏野菜づくり（きゅうり、なす、しそ、トマト、かぼちゃ等）。
  - 8月～10月 採れた野菜を使い家内料理（食べたい料理をつくる）。
  - 11月 畑の片付け。
- ・ 味噌汁づくり（毎週土曜日）ご利用者に野菜を刻んで頂き味付けをして頂く。
- ・ ご利用者との時間を大切にし、話をしながらお茶を楽しむ時間を持つ。
- ・ 誕生会の開催（全員でカラオケ、贈り物、誕生ケーキでお祝いする）。

令和4年度 せせらぎの家 事業計画（北棟）

1. 家目標

我が家のように気兼ねなく、日々の生活に楽しみを見つけながら、その人らしい生活が送れるよう支援していきます。

2. 具体的な方針

- (1) 何気ない声掛けを大切に居心地の良い居場所づくりに心掛ける。
- (2) 得た情報は、職員に申し送り、毎日のケアに繋げる。
- (3) 居室やフロアの整理整頓、介護用品の使い易さなど気に留めておく。
- (4) 一年を通し感染症予防に対し意識しておく。（特に新型コロナウイルス感染症には留意する）
- (5) 専門職として些細な状態変化に気付き、特に終末期を迎える時期においては多職種の協力を得、最後までその人らしさを大切に生活できるようお手伝いをさせて頂く。
- (6) お互いに介護の質の向上と、必要とされる技術や専門性を吸収できるよう、自ら研修や勉強会に参加しスキルアップしていく。（同僚等の優れている部分も吸収する）
- (7) 認知症や持病が進行しても、本人の意志や言動を尊重し、妨げない介護を出来るようにする。（職員は慌てない、急がない、焦らない、応援を呼ぶなど余裕を持つ）

3. 生活面について

(1)生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 車いす自操を促し、手先の運動となるような働きかけをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼食の台車運びを兼ねた歩行訓練等で筋力維持。また、洗濯物畳みや新聞折り等の役割を持つことで遣り甲斐をつくる。</li> </ul> </li> <li>② 出勤時には、寝たきりの方でも全員に挨拶をして回り、また、隣に腰掛け世間話もする。（個人に合ったソファや離床時間も考える）</li> <li>③ 午前、午後の時間に家内で行える軽いレクリエーションを毎日行う。（輪投げ、ボール遊び、塗り絵や計算ドリル、カラオケ等）</li> <li>④ 24時間を通し定期的に換気を行う。また、ケアの都度、職員・入居者共に手洗いや口腔ケアをしっかり行い感染症予防を徹底する。</li> </ul>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食事量にむらがある方、体重減が著しい方には、栄養補助食品や一品追加メニューで、なるべく口から美味しく食べられるよう工夫する。</li> <li>② 嚥下状態低下、病状の進行等の場合、食事形態の見直しを行う。</li> <li>③ 安全な姿勢で食べられるよう車いすから木製椅子へ移る。</li> <li>④ 起床時間に合わせた食事提供と、起床できるような働きかけをする。</li> <li>⑤ 拘縮予防のため、寝たきりの方でも昼食時には車椅子へ移乗する。</li> <li>⑥ 世間話、食前体操等を継続し口腔機能の維持に努める。</li> <li>⑦ 感染予防に留意した席の配置。</li> </ul>
(3)入浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 季節毎、菖蒲湯や柚子湯を楽しむ。</li> <li>② 個人に合った入浴剤、保湿剤、安全な入浴方法を選定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入浴剤／エモリカ、きき湯等。</li> <li>・ 保湿剤／ワセリン、処方の痒み止め、市販のボディクリーム。</li> </ul> </li> </ul>

	<p>③ 個浴であっても立位保持困難と判断した際、職員の応援を頂き、入居者・職員共に安全に行う。</p> <p>④ 状態変化に合わせた入浴日の変更を容易にする。</p> <p>⑤ 終末期であっても週2回の入浴を考える。清拭や手浴、短時間の入浴等臨機応変に行い、さっぱり感を感じて欲しい。</p> <p>⑥ 全身観察と衛生介助を行い、小さな変化にも気付けるようにする。必要な処置があれば医務と協力しケアにあたる。</p> <p>⑦ 拘縮が強い方の安全な入浴を行うため2人介助で行う。</p> <p>⑧ 福祉用具を使用し、両者共に安全な入浴となるよう工夫をして行く。</p> <p>⑨ 入浴拒否の方に、臨機応変に対応できる引出しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入浴時間をずらす。声掛けの職員を変える。訴えていることは何かよく話を聞き、観察も怠らない。</li> </ul>
(4)排泄	<p>① 尿量チェック表等を活用し個人に合ったパットの選定、排泄交換時間や介助方向を見出す。</p> <p>② 医務と連携し、個人に合った下剤コントロールをする。また、普段はベッド上交換の方であっても、トイレでスッキリ感がある方については排便日のみトイレ介助対応を試みる。</p> <p>③ 一日一回の陰部周辺の保湿、その都度の洗浄と清拭対応。</p> <p>④ 羞恥心は誰しもが持つ感情であることを忘れず、介助方法や申し送りの仕方に注意する。</p>
(5)認知症ケア	<p>① ユニット内のチームワークを大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種と常に情報共有、意見交換を気兼ねなく行う。</li> <li>・ 職員間で助言し合い、個人のスキルアップを目指す。</li> </ul> <p>② 職員の名前が分からなくても、顔を見ればわかる、気兼ねなく声を掛けられると云った馴染の関係を築く。</p> <p>③ して欲しいことに気付け、その時々合ったお手伝いをする。</p> <p>④ 畑づくりや家料理を通し昔やっていたことを懐かしむ。</p>

#### 4. その他の取り組み

- ・ 月ごとの誕生会開催（本人希望のケーキ準備、カラオケやプレゼント贈呈）。
- ・ アクティビティの実施（ボールや輪投げで運動、塗り絵や計算ドリルで活性化）。
- ・ 野菜畑づくり5月 畑の土づくり、苗や土の購入等。  
6～9月 夏野菜づくり（なす、キュウリ、かぶ、大葉、いんげん等）。  
10月 畑の片付け・冬野菜作りに向けての苗購入と準備。
- ・ 家料理の開催（収穫した野菜を使って主に夏場の時期に開催。冬は漬物作りをする）。

令和4年度 だんらんの家 事業計画（北棟）

1. 家目標

一人ひとりに適したケアに心掛け、意思を尊重しながら家庭的で居心地の良い雰囲気を作っていく。

生活パターンを把握し、個々に合わせたケアを提供し、毎日が笑顔で過ごせるよう心掛けていく。

2. 具体的な方針

- (1) ユニット内、他ユニット、多職種と連携し統一したケアを行い、ご利用者を第一に考えて行動する。また、「報告・連絡・相談」の基本を怠らない。
- (2) 認知症ケアとは何か、再考しコミュニケーション能力を高め信頼関係を築いていく。  
(否定せず、寄り添ったケアに心掛け、安心して過ごせる居場所を提供する。)
- (3) 感染症（インフルエンザ、新型コロナ等）対策を徹底し、不安なく生活できるようにする。

3. 生活面について

(1)生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 感染症対策として、ご利用者や職員の体調管理はもとより、手洗い、うがい、手指消毒を徹底する。(温度・湿度管理も行う)</li> <li>② ご利用者の意向に対し、否定せず、声掛けを工夫しモチベーションを上げ、意欲的に行動（現存機能の活用）できるよう促す。また、個々の状態や生活パターンに合わせ寄り添ったケアにも心掛ける。</li> <li>③ ご利用者を第一に考え、時間（業務）に追われることなく、余裕をもってケアにあたり、毎日、個々の目標を持って取り組み、充実した1日を過せるようにする。</li> <li>④ 申し送りを徹底し、家職員、他ユニット、多職種で連携を図り、安心した生活が送れるよう統一したケアを行う。</li> </ul>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個々の食事現状を把握し、変化している場合は、食事形態の見直しや食事時間の変更も臨機応変に対応、ベストな状態で「美味しいものは、より美味しく」食べて頂けるようにしていく。</li> <li>② 目で見て楽しめる盛り付けや、食欲が出るよう工夫していく。</li> </ul>
(3)入浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個々の入浴形態や入浴方法を、適宜、見直し、工夫しながら統一したケアを提供していく。</li> <li>② 気分良く入浴して頂けるよう、好みの湯温や好きな音楽を流し、ゆったりと入浴して頂く。</li> <li>③ 入浴剤等を使用し快適な入浴をして頂く。</li> <li>④ 皮膚の状態観察を行い、皮膚トラブルを未然に防ぐ。</li> </ul>
(4)排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 可能な限りトイレで排泄ができるよう促す。</li> <li>② 排泄パターンを把握し、体調や状況に応じパットの見直しを行い、皮膚トラブルや尿臭の軽減に努め、快適に過ごして頂く。</li> </ul>

(5) 認知症 ケア	<p>① 安心して生活を送れるよう、状況に応じた介護・生活支援を行っていく。 （個々の状態に合わせた心のケア、家族のような人間関係を築く）</p> <p>② 意思を尊重すると共に、日々の状態変化に合わせ柔軟に対応。また、訴えや行動を否定せず、その行動（背景）にあるものは何かを考え、多職種で連携し、居心地の良い場になるよう、一人ひとりに合わせたケアを提供していく。</p>
---------------	--

#### 4. その他の取り組み

- 誕生会の実施（食事形態に合わせたケーキでお祝いをする）。
- 家料理（季節の物を味わって頂く）。
- 個々との関りを大切にする。特にベッド上の方とのコミュニケーションを図るため、マッサージ等をしながら会話を進め信頼関係を深めていく。
- アクティビティを充実させ、意欲的に生活を送れるよう支援していく。  
（会話から、求めているものを引き出し、それを提供できるようにしていく。）

令和4年度 こもれびの家 事業計画（北棟）

1. 家目標

喜怒哀楽の感情をしっかり受け止め、最後までその人らしさを大切にしておく。

2. 具体的な方針

- (1) 行動を最初から否定せず、何故、この行動に移ったのかを考え、気分良く生活が送れるよう、言葉遣いなどには特に注意する。
- (2) 最後まで口から食べ、言葉を発し、手足を動かし、笑い声が自然と出るようお手伝いをさせて頂く。
- (3) コロナ禍により、家族との面会や外出制限はあるものの、少しでも気分転換が図れるよう、ちょっとした会話などを楽しめる時間と場所を設ける。
- (4) 介護のプロとして“分からなかった”とすることがないように自分の行動に責任を持つ。

3. 生活面について

(1)生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個人の生活スタイルや日々の変化に合った起床対応を行う。</li> <li>② 申し送りを徹底し、統一したケアが提供できるよう取り組む。</li> <li>③ アクシデント、ヒヤリハットの報告は速やかに報告し書面化する。</li> <li>④ 感染症対策を怠らない。(マニュアルを念頭に)</li> <li>⑤ コロナ禍により、家族との対面面会が制限されている中でも、電話連絡の際は近況報告を行う。</li> <li>⑥ くつろげる場を設ける。(冬には炬燵を設置するなど、居心地の良い環境づくりに努める)</li> <li>⑦ 観葉植物や季節の鉢花を配置し、目でも楽しんで頂く。</li> <li>⑧ 現存機能を低下させないよう、丁寧な言葉掛けをしながら軽度の運動を促す。</li> <li>⑨ 起床や離床時、寝具の乱れや汚染物を確認、清潔と整理整頓に心掛ける。</li> <li>⑩ 同じ目線に立ち、会話やお茶を楽しむ時間を設ける。</li> <li>⑪ 車椅子以外で過ごす時間を設け、安楽な体位と時間をつくる。</li> </ul>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>① これから楽しい食事の時間が始まる、と期待できる雰囲気づくりをする。</li> <li>② 配膳の際はメニューの説明に心掛ける。</li> <li>③ 自助具・食べ易い食器等を用い自力摂取を促す。</li> <li>④ 個々に合ったテーブルの高さ調整や、体位なども見直す。</li> <li>⑤ 咀嚼・嚥下状態に合った食事が提供出来るよう厨房と連携を密にする。</li> <li>⑥ 食事中は食事に集中出来るような環境づくりをする。</li> <li>⑦ 摂取状況に応じ、補助食品や嗜好品を用い栄養面を補う。</li> <li>⑧ 土曜日の味噌汁作りを一緒に楽しむ。</li> <li>⑨ 食後は美味しい飲み物で一息、和みの場を作る。</li> <li>⑩ 毎食後の口腔ケアを実施。</li> </ul>

(3)入浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 羞恥心に配慮した言葉掛けや肌の露出に注意する。</li> <li>② 浴室内の温度に注意する。(適温保持)</li> <li>③ 肌トラブル対策。(入浴剤、保湿クリームなど使用)</li> <li>④ 季節の菖蒲湯や、ゆず湯を実施。</li> </ul>
(4)排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 羞恥心を念頭に、言葉遣いには特に注意する。</li> <li>② 個々の排泄パターンを見出し対応にあたる。</li> <li>③ 臀部状態に応じ保湿剤を使用する。</li> <li>④ 尿臭対策に心掛ける。</li> <li>⑤ トイレで快適な排便を促せるようにする。</li> </ul>
(5)認知症 ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 今、何を求めているのか話を聞く。</li> <li>② 行動を抑えるのではなく一緒に時間をつくる。</li> <li>③ より良いケアを提供するため多職種での協力を得る。</li> <li>④ 即、対応できるよう介護職員は冷静さを失わないようにする。</li> </ul>

#### 4. その他の取り組み

- 誕生会の実施。(本人の希望するケーキを提供(ぼたもち、水ようかん等))
- 花壇で野菜作り。(なす、きゅうり、トマト等)
- 家料理。(季節の野菜収穫時に、馴染みのあるメニューを調理し一緒に食べる)
- 昼食前、レク体操(北国の春)の実施。